



高校生が作る 地区防災計画



本日の発表の流れ

1. 黒潮町と大方高校について
2. 活動の報告
3. チャレンジによる変化

1. 黒潮町と大方高校について



高知県 黒潮町



高知県立大方高校



- 黒潮町**唯一**の高等学校
- 津波浸水域外であり、**津波避難所**に指定されている
- 生徒の**約60%**は黒潮町外から登校

高校を1つの「地区」として、新たな地区防災計画が必要

2. 活動の報告

2-1. 「避難」とは

「避難」とは



「避難」とは

	2018年度	2019年度
避難場所・避難所まで 「いかに移動するか」	防災アプリを用いた 避難訓練の実施 健全な住民とのみ訓練	要配慮者と連携した 避難訓練の実施 一度も訓練への参加経験がない 要配慮者と連携した訓練
長期的な避難所で 「いかに生活するか」	実際の住民情報を使った オリジナルHUGの作成 図上中心の防災学習	小中学校や福祉施設と連携した 実践的な避難所運営訓練の実施 学習成果を活かした実践訓練や 提言の発信

2-2. 避難場所・避難所まで 「いかに移動するか」

自然科学と地域を知る活動

自然科学

京都大学・伊藤喜宏准教授の授業



地震の想定を「正しく」捉えて
科学的な対策を立てる必要がある

地域

入野本村地区・篠田区長の話



地域には障がいや高齢のために
津波避難を諦めている住民が多い

道路インフラの課題

防災面の充実

一方で

住民の不安

道幅が広くなってしまい
逆に避難しにくくなったんじゃ…？

大方改良道路の開通（2019年3月）



「逃げトレ」を使った訓練



津波が来るまでの
残り時間

予想される
最大の津波浸水深

ここに津波が来るまで、
あと9分11秒あるよ。



予想される津波浸水深や津波が到達するまでの残り時間を地点ごとに表示しつつ
アプリを使った “オーダーメイド” の津波避難訓練を行える。

逃げトレ訓練の結果



車椅子を押す
生徒が持っている
スマホの画面



要配慮者と高校生が
一緒にアプリを持って
自宅から一時避難場所まで訓練

逃げトレ訓練の広がり

訓練結果を
手話で説明中



視覚、聴覚が不自由な方とは
それぞれ個別に訓練



ねこぐるまでお年寄りを
運んだとしたら？



高齢者疑似体験装置
お年寄りでも避難できる？

逃げトレ訓練の結果

地震発生後20分後に避難開始



訓練での移動軌跡と
津波浸水シミュレーションを重ねて
訓練後に検証授業を実施

逃げトレ訓練の報告会



家具固定・備蓄品
避難場所の見直し



2-2. 避難場所・避難所まで「いかに移動するか」



要配慮者と協同で行う
高校生の逃げトレ訓練



- ・道路インフラが変わったので、津波避難できるかどうか不安。
- ・本当に避難できるかどうか漠然としていてわからない。

- ・道路インフラが変わってもすぐに避難すれば十分間に合う。
- ・ハザードマップを見たこと無かったがアプリで津波想定を理解できた。

- ・足が悪くて今まで一度も避難訓練に参加したことない
- ・津波から助かる自信ない
- ・あきらめている

- ・高校生が訓練に誘ってくれて生涯で初めて避難訓練をした。
- ・次の避難訓練にあきらめずに参加してみようと思う。

2-3. 長期的な避難所で 「いかに生活するか」

大方高校オリジナルHUG

実際の住民データで人物カードを作成

冬W イベント番号 06

自衛隊が銭湯を開設する。どこに銭湯を開設すべきでしょうか。

共通 イベント番号 04

学校からテレビ1台を提供します。



地域の方からの
聞き取り



人物カードの
作成作業



既存のマニュアルを
より良く！



※イベントカード記入用紙

イベント番号	担当が対応	高校生が対応	準備すべきこと・役割	既対応・実施して欲しいこと
00		受付・案内・受付		
01	受付	入ロ口案内 (体験館)		
02	自営ごきや	中さどうや		
03				
04	中学校科・こらう	中さどうや		
05		高校生がロ小や		
06		中さどうや		
07		受付にける		
08		中さどうや		
09		中さどうや		
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				

※イベントカード記入用紙

イベント番号	担当が対応	高校生が対応	準備すべきこと・役割	既対応・実施して欲しいこと
07		受付・案内	机・足音、紙・ペン	入ロ口案内
01		受付	受付	体験館・体験館
06		受付	受付	
09		受付	受付	
15		受付		
06		受付		
01		受付		
11				
07				
12				
01				
05				
17				

高知県立大方高等学校

避難所対応マニュアル



平成30年4月作成

出張HUG

にしきの広場



福祉避難所で職員の方と

四万十市立蕨岡中学校



隣の市の中学生と
その保護者、地域の方々と

黒潮町役場への提言

自家発電、パーテーション、紙おむつの備蓄が必要だと思います。

トイレが流せなくなった時のために凝固剤と消臭剤を備蓄するのはどうでしょう。

炊き出しスペースやごみ置き場、物資搬入の場所を変更しましょう。
私たちも手伝えます！

地区ごとに配置すれば、必ずしもパーテーションなしでもいいかも…



学校での炊き出し訓練

それぞれ食材を持ち寄り、学校にあるもので調理



限られた食材を使って調理



福祉避難所との連携訓練

福祉避難所での受け入れを
お願いします

大方高校で受付



福祉避難所と連絡



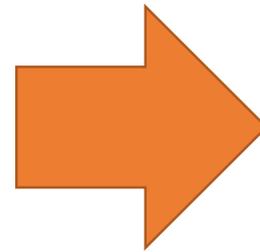
福祉避難所でお手伝い



オリジナル健康体操



理学療法士の方から
エコノミークラス症候群
についての授業

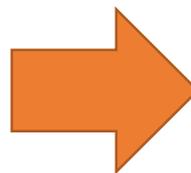


小学生と一緒に
エコノミークラス症候群を
防ぐための方法を学ぶ

メキシコ行政官との交流

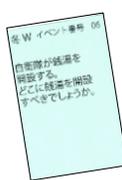


大方高校での
避難所対策の方法を伝える



メキシコ・シワタネホ市で
避難所運営について検討へ

2-3. 長期的な避難所で「いかに生活するか」



オリジナルHUGやマニュアル改定と 高校生の避難所運営訓練



- ・一応マニュアルはあるけど何が書いてあるかわからない。
- ・高校生や地元住民はマニュアルを本当に使えるのか。

- ・学校を一番良く知る高校生の視点からマニュアルの実用性を再検討し提言。
- ・生徒と住民の非常持出袋を事前に学校に置いていこう。

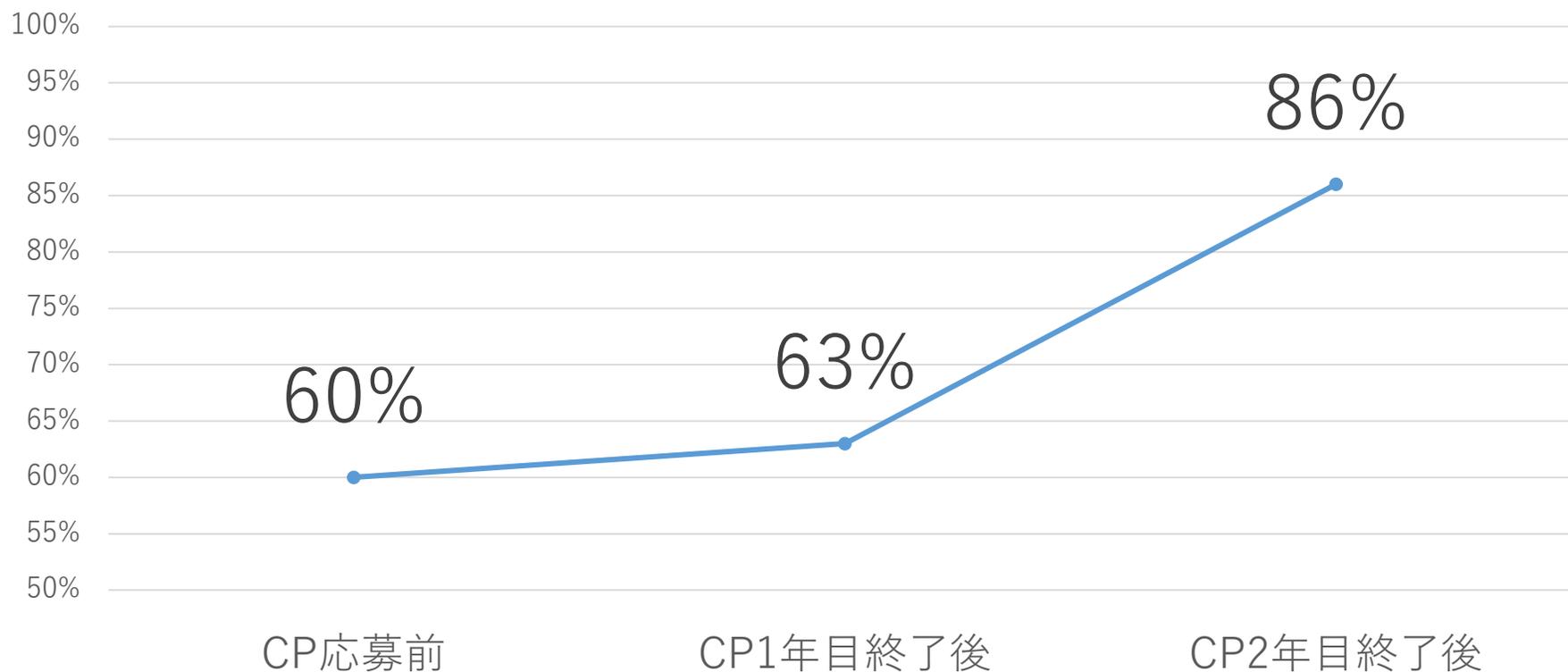
- ・避難所運営は専門的な役場職員がやること。
- ・高校生ができることなんて特になにもない。

- ・高校生が避難所運営で担える役割は意外とたくさんある。
- ・保小中・高齢者・障がい者・外国人と普段づきあいも深めていくべき。

3. チャレンジによる変化

防災意識アンケート

あなたは地震や防災のことに
もっと学習したいですか？（「思う」の回答）



防災意識アンケート

【もっと学習したいこと】

「逃げてからのことをもっと学習したい」

「被災時に自分にできることについて学びたい」

「いろんな防災訓練をやりたい」

【地震発生時にできること】

「お年寄りと一緒に避難する」

「ボランティア」

「周囲に声をかけながら避難する」

「避難所運営の手伝いをする」

自由記述の量が増えた。

全校生徒で意識の変容があり、今後も継続的に防災教育を行える

地域の変化

避難場所・避難所まで 「いかに移動するか」

- 「高校生と一緒にしてくれたおかげで、生まれて初めて津波避難訓練に参加できた」
- 「道幅が広くなっても十分避難できる」
- 「津波避難タワーを要望しなくても、努力次第で、問題なく津波避難できる」
- 「早く避難をするために家具固定や耐震化をしたい」
- 「地域で車椅子をもっとたくさん準備したい」

長期的な避難所で 「いかに生活するか」

- 「非常持出し袋を先に大方高校に置いておきたい」
- 「今まで大方高校に入ったことがなかったので避難所のイメージができなかったけれど、これなら気兼ねなく避難しようと思う」
- 「避難所を運営する上で、高校生が頼りになる」
- 「高校生のおかげで、福祉避難所と一般避難所の連携方法について知ることができた」
- 「避難所運営を全て役場の方にかかせるのではなく、自分たちにできることがあると高校生に気付かされた」

新町・入野本村・早咲・芝・錦野地区など
高校周辺の地域の「地区防災計画」の内容も大きく変わった

本年度の活動の点検



矢守克也教授（地区防災計画学会：副会長）

「昨年度以上に、高校生が数多くの地域住民と連携して積極的に防災活動を行えている」

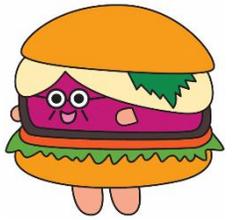
「高校が一つの「地区」として「地区防災計画」を作成し、周辺地域の「地区防災計画」を改善させるきっかけになっている」

生徒の言葉

情報誌の取材
に対して

Q 防災学習をして自分自身が変わったことは？

「大勢の人、と考えず、1人の方の不安に気づけるようになった」



2年間ありがとうございました。

